

活動成果報告書

令和5年度（第27回）「チヨダ地域保健推進賞」

<p>活動テーマ 地域住民と共に取り組む健康づくり ～特定健診・がん検診受診率向上を目指して～</p>	
<p>グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名) 雄武町 健康推進課 代表者：近藤 里奈</p>	<p><写真①> 健康診査いつ受けますか？  <small>※申し込み期間にご確認ください。</small> 雄武町健康推進課保健係 電話：0158-84-2023</p>
<p>勤務先：雄武町役場 所 属：健康推進課 保健係 所在地：〒098-1792 北海道紋別郡雄武町宇雄武700 庁舎別館内 TEL：0158-84-2023 FAX：0158-84-4497</p>	

◇活動方針

概況について、令和4年3月末時点の人口は4,130人、高齢化率34.4%。町の人口に占める国民健康保険加入率は35.2%、国民健康保険被保険者平均年齢48.0歳と国や北海道と比較して平均年齢が低いことが特徴である。本町では、住民が健康で生きがいや楽しみを持って生活できる地域を実現するため、特定健診やがん検診の受診率向上等を図ることで、若くしてがんや循環器病で亡くなる方を救い、要介護状態によるQOL低下予防を目指している。

本町では、一人あたりの医療費や受診率が北海道と比較して低い一方で、一日当たりの医療費や高額医療割合が高い傾向にあり（表1）、重症化リスクの高い人が隠れていたり、必要な治療につながない可能性がある。また、心臓病死亡率や脳疾患死亡率は全道平均・全国平均と比較して高く、生活習慣病対策は喫緊の課題となっている。これまで個別通知やクーポンの送付、保健師からの電話掛けや訪問等により受診勧奨等を行ってきたが、顕著な効果を得ることができず、特にコロナ流行以降低迷した受診率はいまだ回復しきれていない状況である。そこで、保健師からの一方的なアプローチではなく、住民自らが関心を持ち、自身の健康を考える機会が必要なのではないかと考えた。雄武町では一人店主の小さな店が多く、飲食店や美容室、ガソリンスタンド等、町内の各店舗には地域住民が集っていることに着目し、下記のような活動を実施した。

(表1)令和4年度国保データベース(KDB)システム

	雄武町	道
受診率	560.4	685.0
一件当たり医療費(円)	42,980	45,970
一日あたり医療費(円)	27,496	24,843
高額医療割合(%)	41.1	36.8
外来)		
外来受診率	543.8	663.0
一件当たり医療費(円)	24,790	26,650
入院)		
入院率	16.7	22.0
一件当たり医療費(円)	637,170	628,780

活動成果報告書

●活動内容

雄武町商工会員を主とした店舗（41 箇所）と公共施設（8 箇所）に特定健診・がん検診に関するポスター（写真①）の掲示と合わせて、そこに居合わせた住民に対し健診の重要性の説明と個別に健康相談を実施。ポスターのデザインは、特に受診率の低い若年層（40 歳～59 歳）の受診者を獲得するため、Web からの申し込みを促すデザインで作成した。

●活動成果

町内各店舗に対して普及啓発を行ったことで、各店舗に来店したお客と店主間や各店主同士で話題となったり、周知チラシが地域住民の目に触れる機会が多くなり、健康について考えるきっかけを提供することができた。また、各店舗や事業所と健康推進課の間につながりができ、巡回健康相談会やパネル展、出かけ先での健診の申し込み受付等の各種保健事業（表 2）をともに行うこととなった。9 月 25 日に集いの拠点となっている商工会所管の建物で巡回健康相談会を実施した際には、そこに常駐している管理人が健康相談を必要としていそうな方や自身の知人に声かけを行ったことで、通常集っている人よりも多くの方に参加して頂き、町民同士のつながりの強さと効果を改めて実感することとなった。

（表 2）

事業	実施場所	実施内容	参加人数
①巡回健康相談会	・スーパーマーケット ・集いの拠点（商工会所管） ・社会福祉協議会主催のイベント	住民が集っている場に保健師・管理栄養士が出向き、健康相談および健診受診勧奨を実施。	82名
②パネル展	・温泉施設 ・町立図書館	生活習慣病やがん（乳・子宮）に関するパネル展を実施。	45名
③スタンプラリー		上記事業への参加率と健診受診率向上を目的にキャンペーン的に実施。	

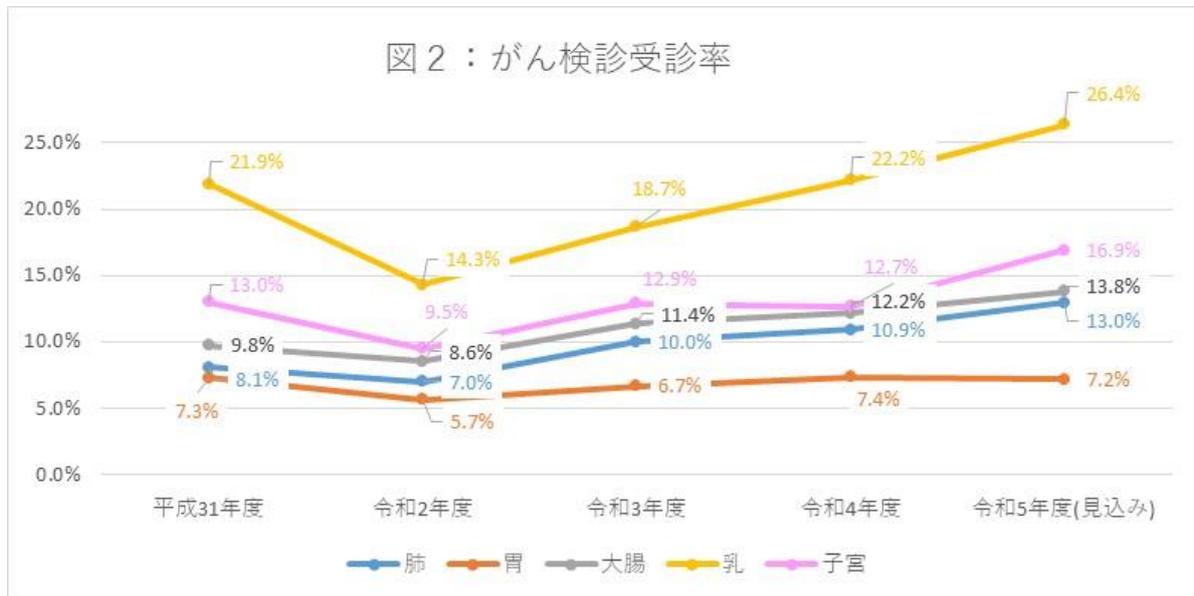
8 月以降に実施した集団健診において、知人や家族に誘われて一緒に受診したという新規受診者の方がいたり、Web からの申し込みが前年度比 2.2 倍に増えていた。Web 申し込み者の内訳では、40～50 代の女性が最も多く、当初ねらいとしていた若年層に効果的であったと考えられる。令和 5 年度特定健診受診率は 26.7%の見込みであり、コロナ流行以降低迷していた受診率は回復傾向にある（図 1）。これまで実施してきた個別勧奨を一層強化しながら、住民自ら健康について関心をもってもらえるような機会を提供できたことが受診率向上という結果に結び付いたと考えられる。

図 1：特定健診受診率



活動成果報告書

がん検診においても、コロナ流行以降伸び悩んでいた受診率は、令和5年度上昇する見込みである(図2)。特に乳がん・子宮がんは前年度と比較しそれぞれ4.2ポイント高くなっており、「希望の虹プロジェクト受診勧奨はがき」による個別通知に加え、パネル展の開催やWeb申し込みの促進を組み合わせて実施したことが効果的であったと考えられる。



◇今後の計画

これまでの保健事業は、行政単体あるいは行政主体で実施することが多かった。営利を目的とする民間事業所との連携は難しいのではないかと考えていたが、各店舗の事業主との対話の中で、その多くが「従業員が健康であることや社会貢献企業として地域にPRすることが利益である」と考えていることが分かり、今回の取り組みにより、店舗や企業との連携のハードルが低くなり、その効果も実感することができた。今後も、町内各企業や各種団体との連携による、住民とともに、あるいは住民主体で取り組む地域づくりを推進していきたい。さらに、今回、住民が集う場所を選定し保健事業を実施したが、これは保健事業と介護予防事業の一体的な実施のポピュレーションアプローチに該当し、本町では令和6年度から展開することを目指している。通いの場の減少や縮小化が課題でもあり、集い場の維持・発展・介護予防という視点においても、今回得られた成果をもとに他機関と連携しながら取り組んでいきたい。